

内視鏡学会の地方会で発表した内容(下記)を報告した。

【対象】2008年2-3月に、中下咽頭癌の高危険群に、通常内視鏡検査に中下咽頭内視鏡検査を併用した37例。
【方法】問診で高危険群を把握し、通常内視鏡観察に中下咽頭観察を併用した。検査後、苦痛の程度などについて、アンケート調査を行った。咽頭癌有所見率、及び、アンケート結果、検査時間により検査の認容性を検討した。【結果】全対象の年齢中央値は67歳、苦痛の程度が許容範囲内と判断されたのは34/37例(91.9%)、中下咽頭観察時間中央値は1分41秒、全観察時間中央値は8分34秒であった。2例3病変に表在型の中下咽頭癌を発見した。2例はともに進行食道癌との合併例であった。【結論】中下咽頭内視鏡観察は、比較的低侵襲かつ短時間で施行でき、スクリーニング検査に併用可能と考えられた。今回の試験における、高危険群での咽頭癌発見率は、5.4%であった。

なお、本試験については、2009年DDW(Digestive Disease Week:米国消化器病週間)のPoster session(M1309:Detection rate of pharyngeal cancer in high-risk groups by endoscopic examination with Narrow Band Imaging(NBI):Single-Center Experience in 103 Patients)で発表したほか、最終報告として、札幌医科大学第1内科との2施設共同臨床試験として、2009年JDDW(Japan Digestive Disease Week:日本消化器病週間)で報告予定である。

2008年8月28日

◆ 急性呼吸不全に対するNPPV療法

～当科における経験症例～

呼吸器科 小林 智史 佐藤 さゆり
池田 貴美之 笹岡 彰一

NPPVとはNon-invasive positive pressure ventilation(非侵襲的陽圧換気)の略である。マスクを介して陽圧換気を行い、非侵襲的に換気を補助する方法であり、COPD急性増悪や免疫不全に合併する呼吸不全、急性心原性肺水腫、気管支喘息、ARDSなどにエビデンスが認められている。

自発呼吸が無い症例、気道確保が不能な症例、顔面の手術後・外傷・奇形がある症例、患者の協力が得られない症例などでは適応にならない。気管挿管を用いたIPPV(侵襲的陽圧換気)と比較すると、気管挿管手技に伴う合併症(血圧変動、食道誤挿管、歯牙損傷など)が回避できる、鎮静の必要性が減少する、着脱が簡便で施行時間の調節が容易である、VAP(人工呼吸器関連肺炎)の発生が少ないなどの利点がある一方、気管挿管されていないため高い気道内圧が得られない、気道内分泌物の

直接吸引ができない、マスクの圧迫による発赤・びらん・潰瘍の形成、軽症と誤解されるなどの欠点もある。

BiPAPとはBi level positive airway pressureの略で、2つの陽圧(IPAP、EPAP)によって換気補助を行う、NPPVのために開発されたマスク換気療法である。

当科において、BiPAPを用い急性呼吸不全に対するNPPV療法を施行し、改善した症例を数例経験したので、報告する。

2008年8月28日

◆ 外傷診療ガイドラインの紹介

～当院での導入を前に～

麻酔科 下 舘 勇 樹
外科 佐々木 賢 一
整形外科 高 橋 信 行

当院へ搬送される重症の外傷症例は次第に増加しているが、従来から1)救急隊との情報交換が不足している 2)コンサルトすべき診療科に迷う 3)リーダー不在の診療 4)院内関係部署の連携不足 などの問題点が挙げられてきた。

重症外傷の診療では「受傷から手術まで1時間以内」が傷病者の予後改善に不可欠でありGolden hourと呼ばれている。しかし現状では手術まで数時間を要する症例もあり、新たに外傷に対応するシステムを構築し直す必要があると考えられるため、より効率的かつ円滑に初期診療を進めることを主眼に当院における外傷診療ガイドラインを策定したので紹介する。

新たに運用されるガイドラインは、現在国内で外傷診療の標準とされているJPTECおよびJATECに準拠しており、1)救急隊からの第1報をもって外傷システムを起動し2)5つの診療科から成る外傷チームを召集3)関係各部署へ重症外傷患者の搬入を予告することにより診断から治療までの時間短縮を達成しようとするものである。

外傷を専門とするか否かに関わらず、より多くの当院医療従事者がガイドラインを理解できるようにその理論を概説し、さらにデモンストレーションを供覧する。

2008年9月25日

◆ 精神科デイケア～利用者にとってデイケアとは～

リハビリテーション科 精神科作業療法士

林 卓 生

精神科デイケア(以下:DC)は、精神科リハビリテーションの一環として、再発・再入院の予防、QOLの向上などの目的で実施されている。当院では平成9年6月に